

# 第4次戸沢村読書推進計画

～『読書の村 とざわ』 自立した読書家の育成～



「移動図書室（保育園）の様子」

2025年4月策定

山形県戸沢村教育委員会

## はじめに

おはなしサークルくれよんさんから、卒業する9年生への読み聞かせの依頼が今年も来ました。戸沢学園を卒業していく子どもたちに、読み聞かせをする機会をいただきありがたく思っています。今年は、去年読んだ本と新たに見つけた本の2冊を読む予定です。どんな反応があるか今から楽しみです。15歳という年齢は本を選ぶ際に気になりますが、子どもたちの反応は心配することなく素直に聞いてくれます。絵本の魅力は、年齢に関係なく心の中にすーと入り込んでいくところだと思います。ちなみに、今年は、「ぞうのはなのあなはどこまでつづいているの?」と「どこいったん」です。

読み聞かせの効果はいまさら言うまでもありませんが、やはり親子のふれあいで生まれる子どもの心の安定だと思います。親子で共有する絵本の世界と時間は貴重なものだと思います。家庭は子どもの心を育てる大事な場です。忙しい中ですが、親子で共にする時間を取ってほしいと願って、「読書の村とざわ」を掲げて取り組んできました。読み聞かせをしている家庭も8割を超えています。幼児期の大事な取組を今後も継続していきたいと考えています。

さて、第4次読書推進計画は、大きな変更もなく概ね第3次を継承するものとなっています。その中であって、真新しいものとしてデジタル社会に対応した読書環境の整備があります。デジタル教科書や一人1台のタブレットを使いこなしている子どもたちにとっては、デジタルブックもすんなりと受け入れられるものと思われれます。でも、紙の本への愛着があるものとしては、なかなか素直に領けれないのが現状です。でも、選択肢の一つとして、整備をすることには賛成です。何はともかく、本に親しんでくれればいかと思います。

中央公民館の図書室では、えほんの森や移動図書などたくさんの企画を行っています。SNSを活用した周知なども積極的に取り組んでいます。その成果も少なからずあるものと実感しています。子どもたちそして大人も含めた村全体で、本のある環境にしていきたいと考えています。

結びに、村民の皆様をはじめ、読書活動の推進にかかわる学校・保育園はじめ関係の皆様におかれましては、この計画の趣旨をご理解いただき、積極的にご活用いただくことを願っております。本計画にご協力いただきました関係各位に感謝を申し上げ、計画策定の挨拶とします。

令和7年4月1日

戸沢村教育委員会

教育長 市川重保

# 目次

## I 計画の基本的な考え方

1. 背景と主旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

## II 第3次戸沢村読書推進計画の成果と課題

1. 家庭における取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
2. 乳幼児期～保育園就園児への取り組み・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 小学生期への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
4. 中学生期への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
5. 高校生期への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
6. 成人から高齢者への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
7. 普及活動の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
8. 図書室を拠点とした読書活動の取り組み・・・・・・・・・・・・・・ 10

## III 第4次戸沢村読書推進計画 基本方針

1. 第4次戸沢村読書推進計画基本方針図・・・・・・・・・・・・・・ 13
2. 読書の村とざわの推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
3. 発達段階に応じた読書習慣の形成・・・・・・・・・・・・・・ 14
4. 家庭読書の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
5. 地域に向けた読書活動の推進（自立した読書家の育成）・・・・・・ 18
6. 図書室の整備・図書の実充・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

## 添付資料

1. 戸沢村読書アンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
2. 第4次戸沢村読書推進計画策定委員名簿・・・・・・・・・・・・・・ 24

## I 計画の基本的な考え方

### 1. 背景と主旨

「読書」が培う国語力や言葉の知識、読解力はあらゆる教科の学習の基礎学力に欠かすことが出来ないものです。また、読書によって育まれた豊かな感性や情操、思いやりは子どもの心の発達に大きな影響をもつともいわれています。読書活動を通して子どもは幅広い知識を習得し、必要な情報を選択して、活用する能力を培うことが出来ます。

また、子どもだけではなく大人にとっても読書活動は、新たな世界を知り、想像力を豊かなものにし、人生をよりよく生きていく上で欠かすことのできないものです。読書は大人になっても新しい価値観を知ることのできる貴重な機会でもあります。

戸沢村では、平成27年度より読書推進計画を策定し、子どもの読書活動だけではなく、親子で一緒に活動できるようにするなど工夫を凝らし大人の読書活動にも力を入れてきました。この第4次計画では、今までの計画を受け継ぎながら、デジタル社会に対応した多様な読書活動を推進するために、環境の整備や充実・施策などを示します。

### 2. 計画の位置づけ

この計画は、第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「第4次山形県読書活動推進計画」を基本とし、本村の現状を踏まえながら、戸沢村の読書活動の推進に関する目標・基本方針と具体的な活動を備えるものとします。



【えほんの森ハロウィンスペシャル】



【おはなしサークルくれよん】

## II 第3次戸沢村読書推進計画の成果と課題

### 1. 家庭における取り組み

#### ①令和6年度までの目標と方針

- ・家庭での読書活動を奨励し、「読書の村 とざわ」の基礎を創ると共に家庭の教育力の向上を目指す。
- ・読書の習慣づけをねらい、発達段階に応じた図書の紹介、図書室の活用の推進等を、村民に周知する。
- ・乳幼児期から「読み聞かせ」の意義と重要性の理解促進を図り、親子のふれあいの中で「家読」を推進する。

#### ②主な取り組み

- ・えほんの森（スペシャルイベントを令和2年度から開催）
- ・乳児健診時のブックスタート事業の実施
- ・のほほん日和の発行
- ・広報とざわを活用した村民向けの図書の紹介
- ・読書手帳・読み聞かせ手帳の配布
- ・読書推進講座の実施

#### ○成果

- ・のほほん日和の発行を通して本の紹介を行うことで、家庭での読書活動を奨励してきた。
- ・えほんの森やブックスタート事業、読書推進講座等を行うことにより、乳幼児期の子どもと親に対して、「読み聞かせ」の意義と重要性の理解促進を図り、「家読」の推進に繋げることが出来た。

#### △課題

- ・えほんの森や読書推進講座等で「読み聞かせ」の意義と重要性を周知してきたが、参加者が少ないことや固定している等の課題があるため、より多くの人々に参加してもらえるよう工夫する必要がある。

## 2. 乳幼児期～保育園就園児への取り組み

### ①令和6年度までの目標と方針

- ・絵本や物語を家族や保育士などと触れ合いながら読んでもらい、興味を示すようになる。
- ・読書の意義や必要性の周知・親子の触れ合いの充実。
- ・保育園と連携し、読み聞かせを通じた親子の触れ合いと生涯にわたる読書習慣の基礎作り。

### ②主な取り組み

- ・えほんの森（スペシャルイベントを令和2年度から開催）
- ・乳児健診時のブックスタート事業の実施
- ・乳児健診時を活用した読み聞かせ
- ・絵本作家講演会等、読書推進事業の実施
- ・読書手帳・読み聞かせ手帳の配布・活用
- ・のほほん日和の発行
- ・保育の中で読み聞かせ（1日2冊以上）
- ・読書（一人読みの推進）
- ・絵本を活用した保育活動（絵を描く、劇をする）
- ・移動図書室の充実（令和3年度から実施）
- ・園だよりなどでの読書に関する紹介や習慣づけ・意義の周知
- ・毎月の月間絵本の配布（クラス・年齢別に分けた内容を保護者に教材として購入してもらう）
- ・絵本コーナーの充実（クラス・年齢別に毎月変える）

### ○成果

- ・保育の中で保育士が読み聞かせをすることで、子どもたちにとって本が身近な存在になった。また、読み聞かせした本の内容が様々な遊びに発展したり、3歳でも一人読みが出来る子も増えている。
- ・保育士による読み聞かせ活動や、保育士が子どもの好きな本をお誕生日会でパネルシアターやペープサートにして活用するなど、子どもが本に興味をもつように活動した結果、子どもの本に対する興味・関心が高まった。

- ・図書スペースの設置により、子どもが自ら好きな本を選べるような環境を整えることができた。日常的に本が子どもの側にある環境になっている。
- ・読み聞かせをしている親子は例年高い水準となっている。【図表1、p 20参照】えほんの森やブックスタート事業、読書推進講座に加え、のほほん日和で読み聞かせの意義について周知したことが、読書の習慣づけ、基礎作りに繋がっている。
- ・移動図書室を行ったことにより、普段、中央公民館によることが難しい人たちも参加することができ、年間約500冊以上の貸出を行うことが出来た。
- ・ブックスタート事業によって、健診時にスマートフォンを見る親はほとんどいなくなり、積極的に絵本を手にとって読み聞かせをしている親が多く見られるようになってきた。

#### △課題

- ・えほんの森をはじめとしたイベントの参加者が固定化しているため、より多くの人々に参加してもらうように工夫する必要がある。
- ・移動図書室での保護者の利用は多かったが、図書室での利用はまだまだ少ないため、就学時健診のように保護者が多く参加する事業と連携した取り組みを行っていく。
- ・園だよりなどの保育園からの文書を活用して読み聞かせの重要性について周知していく。



【保育園の先生による読み聞かせ】



【健診時ブックスタート事業】

### 3. 小学生期への取り組み

#### ①令和6年度までの目標と方針

- ・学習指導要領を踏まえた読書活動の推進。
- ・学校図書室を中心にして、児童が主体的、意欲的な読書活動を行うことが出来るように学校図書室の計画的な利活用を行う。
- ・地域の方や教員による読み聞かせなど、本に触れる機会や委員会活動を中心にした読書に関わる取り組みを行う。
- ・多くの本を読み、読書の幅を広げられるようにする。(5・6年生)

#### ②主な取り組み

- ・図書委員会の活動(図書館祭り、POPの掲示や本のくじなど)
- ・親子読書の実施
- ・先生による読み聞かせの実施
- ・学級文庫の設置
- ・読書タイムや学習タイムなどで本を読む時間を確保する
- ・新入生への図書と中央公民館図書室利用者カードの贈呈
- ・中央公民館図書室と学校図書室の連携

#### ○成果

- ・低学年で、本が好きな児童の割合が約8割おり、児童が本に親しみ、読書を行うための素地が出来ている。【図表2、p20参照】
- ・学習タイムに読書を取り入れ、児童が本を読む時間を確保したことによって、自ら本を選ぶきっかけになり、読書習慣の基礎作りに繋がっている。
- ・地域の方や先生方の読み聞かせ活動により、子どもたちにとって、様々な種類の本に出会う機会となり、自分が選ばないような本と出会うきっかけになっている。
- ・年に1回、図書館祭りや本のくじなど、委員会活動を中心にした読書への興味関心を高める活動を行うことが出来た。これらの活動を通して、児童が多くの本を読んだり、児童の読書の幅を広げたりすることに繋がった。

### △課題

- ・ 4年生で「本を読むのがきらい」という児童が増えている。絵本から児童書へ移行する時期に、本を手に取りたくなるようなきっかけ作りを工夫する必要がある。【図表2、p20参照】
- ・ 【図表3、p21、22】をみるとほとんどの児童が図書室を利用しているが、ほとんど行かないという児童も一定数いるため、読書活動を取り入れた授業作りを実践したり、図書室の活動を紹介したりしていく。



【委員会活動の様子】



【中央公民館図書室の利用】

## 4. 中学生期への取り組み

### ①令和6年度までの目標と方針

- ・ 内容に共感や感動できる本を選び、将来に役立てるような読書を行う。
- ・ 読解力の育成や探究的な学習を行うにあたり、情報活用能力の育成を視野に入れた読書活動、図書室の利活用を展開。
- ・ 読み聞かせの必要性を理解し、将来の親になることを視野に入れた中学生の読み聞かせを行う。

### ②主な取り組み

- ・ 朝の読み聞かせ、昼読書の実施
- ・ 中学生による保育園・初等部への読み聞かせの実施
- ・ 図書委員による企画の実施（多読賞、学級文庫、図書展示など）
- ・ 地域コーディネーターによる本とPOPの展示及び図書紹介
- ・ ビブリオバトルの開催

### ○成果

- ・昼読書を継続的に行っており、忙しい中でも本に触れる時間を設定していることで、本が好きだという生徒の割合が多くなっている。
- ・ビブリオバトルを通して、本への関心が高まった。事後アンケートで「次に読みたい本が見つかった。」と答えた生徒の割合は約8割に上った。
- ・地域コーディネーターによる図書室の整備。生徒の声を取り入れた図書の購入により、利用しやすい環境が整えられている。
- ・図書委員による「本のくじ」や「しおりづくり」などの企画が図書室に来るきっかけにつながった。

### △課題

- ・読書アンケートでは、本を読む機会の少なさに比べて、メディア使用時間が多いことが伺える。忙しい中でも本に触れる機会を確保していくことが必要である。



【初等部への読み聞かせ】



【ビブリオバトルの様子】

## 5. 高校生への取り組み

### ①令和6年度までの目標と方針

- ・知的興味に応じた幅広い読書活動を行うこと。

### ②主な取り組み

- ・図書室への年代に合わせた図書の購入

### ○成果

- ・高校生が興味を持つような本を選び、蔵書に加えることが出来た。

- ・高校生ボランティアサークル「STAFF」を中心にえほんの森等図書イベントへの協力を依頼し、連携することが出来た。

#### △課題

- ・年代に合わせた図書を購入しているが、図書室まで足を運ぶ人がいないため、広報で高校生向けの情報発信を行うなどの工夫を行う必要がある。
- ・高校生になっても、中央公民館図書室と関わりがちなような工夫を行う必要がある。



【高校生ボランティアサークル「STAFF」（えほんの森にて）】

## 6. 成年から高齢者への取り組み

### ①令和6年度までの目標と方針

- ・自立した読書家の育成と読み聞かせを通して、読書の推進を行う。
- ・個人として読書に親しむことが出来るようにすることと、親や家族として、読書を推進していくことの意義や大切さを周知する活動を推進していく。

### ②主な取り組み

- ・とざわMiniライブラリーの実施
- ・移動図書室の実施（戸沢村役場本庁舎）
- ・Facebook、Instagramの開設によるSNSを通じた活動の周知
- ・広報とざわを活用した村民向けの図書の紹介

#### ○成果

- ・えほんの森や絵本作家講演会など、親子で一緒に参加できるようなイベ

ントを企画することで、親に読書の意義や大切さを伝えることが出来た。

- ・ FacebookとInstagramを開設したことで、図書室の情報をより多く周知できるようになった。
- ・ 移動図書室に大人向けの本を持っていくことで、子供だけではなく親も本を手にする機会が増えた。

#### △課題

- ・ 子育て世代以外の図書室の利用が少なく、大人の読者活動について意識調査を行っていく必要がある。リクエストボックスで回答の取りまとめを行うなどの対策を行っていく。
- ・ とざわMiniライブラリーの活動場所が少ないため、今後活動場所を広げていく必要がある。

## 7. 普及活動の取り組み

### ①令和6年度までの目標と方針

- ・ 村広報やのほほん日和を発行し、保護者や地域に対して、「読み聞かせ」の意義、重要性を周知する。
- ・ 子どもへの絵本の贈呈や読み聞かせに等に関わる事業で、「読書の村とざわ」に関するPRを行っていく。

### ②主な取り組み

- ・ 広報とざわを活用した村民向けの図書の紹介
- ・ のほほん日和の発行
- ・ 乳児健診時のブックスタート事業の実施
- ・ 入学時に教育委員会からの図書の贈呈
- ・ えほんの森
- ・ SNSを活用したイベントの周知

### ○成果

- ・ 村広報やのほほん日和の定期発行を行うことにより、村民に「読み聞かせ」の意義や重要性を周知することが出来た。

- ・「読書の村 とざわ」の取り組みとして、乳児健診時にブックスタート事業の実施や入学時に図書の贈呈を行うことが出来た。

- △課題
- ・戸沢村メディアコントロール月間に合わせて、保育園・小中学校・図書室などの活動紹介を行うことはできたが、村民一帯で「読書の村 とざわ」を推進することについては、課題があった。



【SNSでの発信】



【のほほん日和の発行】

8. 図書室を拠点とした読書活動の取り組み

①令和6年度までの目標と方針

- ・図書室を拠点にした読書活動の推進と、資料、施設等の整備・充実を推進していく。
- ・蔵書の充実、発達段階に見合った図書の紹介、読み聞かせを通じた活動など、「本に親しむことの意義や重要性」を周知する活動に取り組んでいく。
- ・村民に本の紹介や読書の重要性について広く周知し、「読書の村 とざわ」をPRしていく。

②主な取り組み

- ・図書室の環境整備（図書活動の館内掲示）
- ・図書室の夜間・休日開放

- ・読書手帳・読み聞かせ手帳の配布
- ・えほんの森の実施
- ・読書推進講座の実施
- ・中央公民館図書室購入計画の実施
- ・放課後子どもクラブとの連携で音読チャレンジの実施

平成27年に策定し、図書室の蔵書を充実させるため8,000冊を目標として活動した。

#### ○成果

- ・平成27年度には7,249冊だった蔵書を8,919冊まで増やし、図書室の蔵書を充実させることが出来た。
- ・図書室の利用人数について、前回計画策定時の令和2年4月1日から令和3年2月17日までの延べ人数は1,922人だが、令和6年4月1日から令和7年2月14日までの延べ人数は3,316人と大きく増加しており、夜間・休日開放だけではなく、えほんの森のハロウィンイベントやクリスマスイベントを行った成果が出ている。
- ・令和2年7月より夜間・休日開放を行っており、利用者の延べ人数は令和6年4月1日から令和7年2月14日までで106名となっている。
- ・移動図書館の場所や回数を増やせた。
- ・中央公民館を会場として、えほんの森や読書推進講座等を開催し読書活動の推進を行うことが出来た。
- ・毎月の「のほほん日和」の配布や広報、SNS等を活用して、図書室の活動を広く周知することが出来た。広報では、新たに村民の方にお声がけして自身の「押し本」コーナーを作ったことで、多くの方により興味を持ってもらえるようになった。

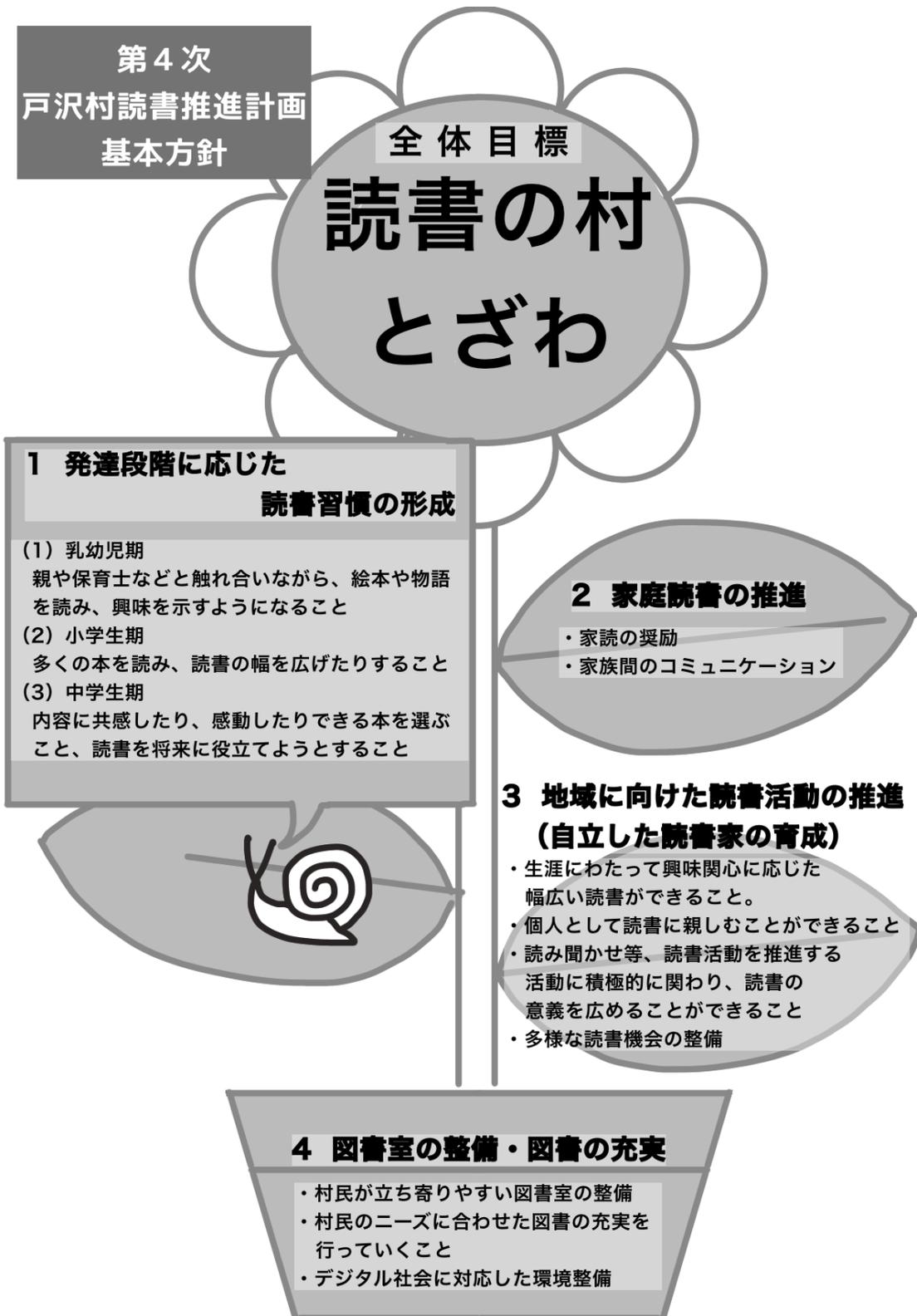
#### △課題

- ・「読書の村 とざわ」を軸として活動を行ってきたが、村民への周知が未だ課題である。
- ・えほんの森をはじめとしたイベントの参加者が固定化しているため、より多くの人々に参加してもらうように工夫する必要がある。
- ・村民の本に対するニーズを広く調べていく必要がある。

- ・ 図書室の場所、開館時間に関して、他の市町村から来た人でも分かりやすい表示を作るなど、より広く周知を行う必要がある。
- ・ 大人向けの図書イベントは集客が難しく、実施出来ていない。読書の村として、大人がもっと読書に興味を抱き、親しめるような事業に力を入れる必要がある。

Ⅲ 第4次戸沢村読書推進計画 基本方針

1. 第4次戸沢村読書推進計画 基本方針図



## 2. 読書の村とざわの推進

すべての村民が読書に親しみ、ライフステージに応じた読書習慣を形成することを目指していく。

読書活動を推進することで家庭の教育力、地域の教育力の向上を図っていく。

また、中央公民館図書室を核として、移動図書室、施設開放、蔵書管理の徹底などの図書環境を整備し、村民が一度は立ち寄る図書室を目指していく。

## 3. 発達段階に応じた読書習慣の形成

ライフステージに応じた読書習慣の形成に向けた家庭・地域・学校などがそれぞれの役割を担い、連携した取り組みを推進していく。

### (1) 乳幼児期に対する取り組み

#### ①目標

親や保育士などと触れ合いながら、絵本や物語を読み、興味を示すようになること

#### ②方針

乳幼児期は、生涯にわたり、読書に親しむ読書習慣の基礎作りに当たる重要な時期である。よって、乳幼児期の子どもと家庭に対して、読書の習慣づけの重要性の理解促進に努めていく。

教育委員会では、乳幼児と保護者を対象とした「えほんの森」の開催、図書室だより「のほほん日和」の発行、健康福祉課「ブックスタート」事業との連携等を一層充実させ、乳幼児を持つ保護者に、読み聞かせの重要性や読書の意義を積極的に周知していく。同時に、図書を介しての親子のふれあいの充実をめざしていく。各取り組みに際し、より多くの家庭に参加してもらえるように工夫していく。

また、保育園では、絵本を活用した保育活動や読み聞かせ等を継続していく。そして、本が子どもたちの身近にある環境をつくり、子ども達が図書の豊かな世界と出会えるように活動していく。

### ③具体的な取り組み

保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育の中での読み聞かせ活動</li> <li>・ 絵本を活用した保育活動</li> <li>・ 読書（一人読みの推進）</li> <li>・ 絵本コーナーの充実</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭での読み聞かせの実施</li> </ul>
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ えほんの森の充実</li> <li>・ 健診時の読み聞かせ活動</li> <li>・ 読育講座の開催</li> <li>・ 移動図書室の充実</li> <li>・ のほほん日和の発行</li> <li>・ ブックスタート事業との連携</li> </ul>
他機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブックスタート事業の実施（健康福祉課）</li> </ul>

## (2) 小学生期に対する取り組み

### ①目標

多くの本を読み、読書の幅を広げたりすること（5・6年生）。

### ②方針

学校では、学習指導要領に基づき、教科指導や特別活動の中で、9年間を見通した読書活動を一層推進していく。また、図書委員会による自主的な活動、児童自身が読書活動のおもしろさ、図書を選ぶ楽しさを体験する活動を奨励していく。そして、小学生期においても、地域の方や教員、中等部生徒による読み聞かせを継続していく。

教育委員会では、学校の読書活動推進の取組を支援するとともに、学校図書館と中央公民館図書室との連携を図り、高学年になっても本が好きだという児童を育むため、魅力的な本の紹介等を工夫して行っていく。

### ③具体的な取り組み

学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本のくじや図書館祭りなどの図書委員会の活動</li> <li>・ 先生による読み聞かせの実施</li> <li>・ 地域の方（読み聞かせサークル）による読み聞かせ</li> <li>・ 学級文庫の設置</li> </ul>
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書タイムや学習タイムなどで本を読む時間の確保</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家読の奨励</li> <li>・本のある家庭づくり</li> </ul>
教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動図書室の実施</li> <li>・新入生への図書と貸し出しカードの贈呈</li> <li>・学校図書館との連携</li> </ul>

### (3) 中学生期に対する取り組み

#### ①目標

- ・興味関心に応じて進んで本を読むこと。
- ・読書を日常生活や将来に役立てようとする事。

#### ②方針

中学生期では、小学校期の方針に加え、生徒自身が読み聞かせを行うことで、読み聞かせの意義や読書習慣の必要性を考えられるようにしていく。また、探究的な学習における図書の活用、図書委員会による意欲的な活動を推奨し、生徒が、目的に応じて、学校図書室を効果的に利活用できるとともに、卒業後も、読書を自己の将来に役立てる選書能力の向上を目指していく。

教育委員会では、小学生期と同様に、学校や学校図書館における取組を支援していく。また、学校図書館と連携し、生徒や保護者等に読書活動に関する情報提供を積極的に行っていく。

#### ③具体的な取り組み

学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼読書の実施</li> <li>・中等部生徒による保育園・初等部への読み聞かせ</li> <li>・図書委員による企画の実施（多読賞、学級文庫、図書展示など）</li> <li>・地域コーディネーターによる本とPOPの展示及び図書紹介</li> <li>・ビブリオバトルの開催</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家読の奨励</li> <li>・本のある家庭づくり</li> </ul>

教育委員会	・学校図書室との連携
-------	------------

#### 4. 家庭読書の推進

家庭での読書活動は、村民が生涯に渡り、読書に親しむ読書習慣を形成する基盤である。さらに、家庭での読書活動の充実は、図書を通じた家庭の教育力の向上に繋がっていく。

教育委員会では、子供や保護者を対象とした取組の企画・実施、「家読」の奨励に取り組んでいく。「家読」は、本をコミュニケーションツールとして、家族の相互理解を深め、絆が一層深まることをねらいとしていく。読書を通じて感じたことや考えたことを家族で話し合うことで、家族間のコミュニケーションを促していく。

##### ○具体的な取り組み

教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のほほん日和での家読の紹介</li> <li>・えほんの森の開催</li> <li>・絵本作家講演会等の読書推進講座の開催</li> <li>・移動図書室の実施</li> <li>・放課後児童クラブとの連携（音読チャレンジ）</li> <li>・絵本のおさがり会の開催</li> <li>・図書カード保有数の増加</li> <li>・健康福祉課との連携（ブックスタート事業や就学時健診での読み聞かせの実施など）</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園だよりなどで読書に関する取組の紹介や読み聞かせ・読書の意義の周知</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家読の奨励</li> <li>・本のある家庭づくり</li> </ul>
他機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブックスタート事業の実施（健康福祉課）</li> </ul>

## 5. 地域に向けた読書活動の推進（自立した読書家の育成）

ライフステージの成年以降は、自立した読書家の育成をめざしていく。個人として読書に親しむことができることと読み聞かせ等、読書活動を推進する活動に積極的に関わり、読書の意義を広げることができることを目標としていく。

教育委員会では、読書活動に対する意識調査やアンケートを行い、村民の読書への関心を高める取組や図書室を拠点とした読書活動、ボランティアと協力した取組を推進していく。

義務教育後の高校生については、興味関心に応じた幅広い読書ができることを目標としていく。

教育委員会では、高校生の時期の子どもたちが、中央公民館の図書室に気軽に足を運び、読書や学習において図書室を利用したくなるような工夫を行っていく。また、教育委員会が企画運営する取り組みに、ボランティアとして高校生の積極的な参加を促し、高校生による読書活動の推進を進めていく。

### ○具体的な取り組み

教育委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・中央公民館利用団体への本の紹介・展示</li><li>・リクエストボックスの設置</li><li>・とざわMiniライブラリーの拡大</li><li>・POPコンクールに村民の参加を募る</li><li>・おすすめ本の紹介を、村民から募集して広報へ掲載</li><li>・読書の村とざわのイメージキャラクター作り</li><li>・大人の図書イベントの開催</li><li>・図書カード保有数の増加</li><li>・読み聞かせボランティアとの連携・協力、育成</li><li>・デジタル社会に対応した読書環境の整備の検討</li><li>・多様な読書機会の提供（障害のある方にも利用しやすい書籍の整備等）</li></ul>
他機関	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会福祉協議会との連携 (高齢世代に向けた要望アンケート依頼等)</li></ul>

## 6. 図書室の整備・図書の充実

図書室の整備・蔵書の充実は、読書の村とざわとして読書活動を推進していくいく上で欠かせないものである。中央公民館の図書室を拠点として村民が立ち寄りやすい図書室の整備、村民のニーズに合わせた図書の充実を行っていくことを目標としていく。

### ○具体的な取り組み

教育委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>・中央公民館図書室と学校図書館の幅広い世代に向けた本の整備</li><li>・図書室の夜間・休日開放の継続</li><li>・移動図書室・団体貸出の実施、拡大</li><li>・玄関ホールにミニ図書コーナーの設置</li><li>・中央公民館図書室購入計画の当初の目標は達成しているため、今後は8,000冊以上の蔵書を維持しながら、村民のニーズに合わせて新しい本を配架していく。</li><li>・村民に対するアンケートの実施</li><li>・学校図書館の開放</li><li>・デジタル社会に対応した読書環境の整備の検討</li><li>・多様な読書機会の提供（障害のある方にも利用しやすい書籍の整備等）</li></ul>
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

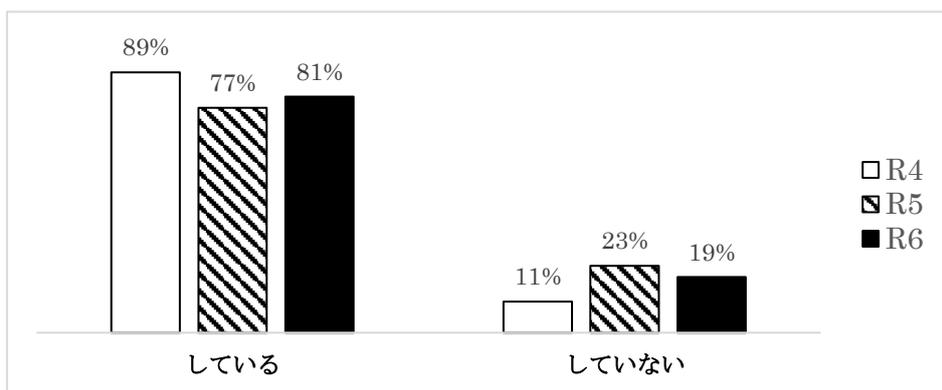
添付資料

1. 戸沢村読書アンケート

戸沢保育園保護者向け 読書アンケート（令和4年度～令和6年度）  
戸沢読書アンケート（令和4年度～令和6年度）

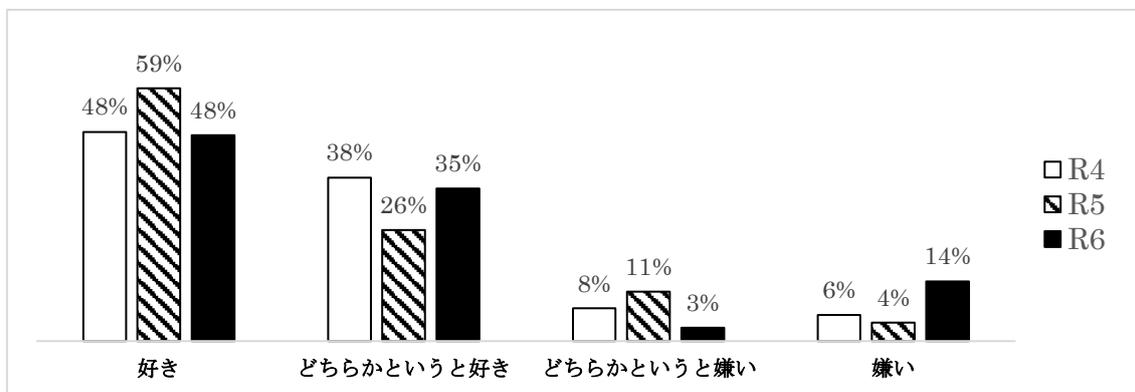
- ①目的 戸沢村読書推進計画の実態を把握し、今後の図書事業に生かすことを目的に実施した。
- ②調査時期 毎年11月にアンケートを実施
- ③対象
  - ・戸沢保育園保護者向け 読書アンケート  
令和4年度～令和6年度当時の年少児～年長児
  - ・戸沢読書アンケート  
令和4年度～令和6年度当時の初等部1年生～中等部9年生  
(以下一部抜粋)

【図表1】読み聞かせをしていますか？（保育園保護者）

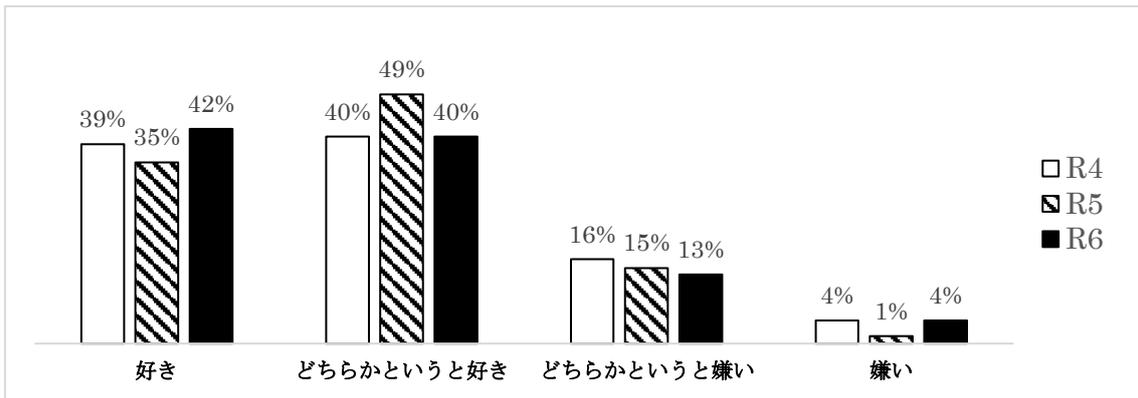


【図表2】本を読むのは好きですか？（初等部、中等部）

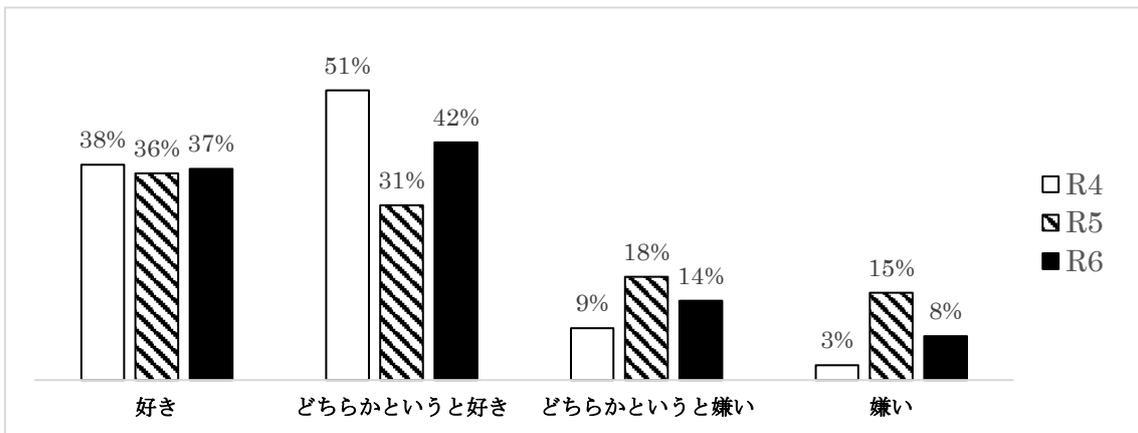
初等部下学年（1～3年生）



初等部上学年（4～6年生）

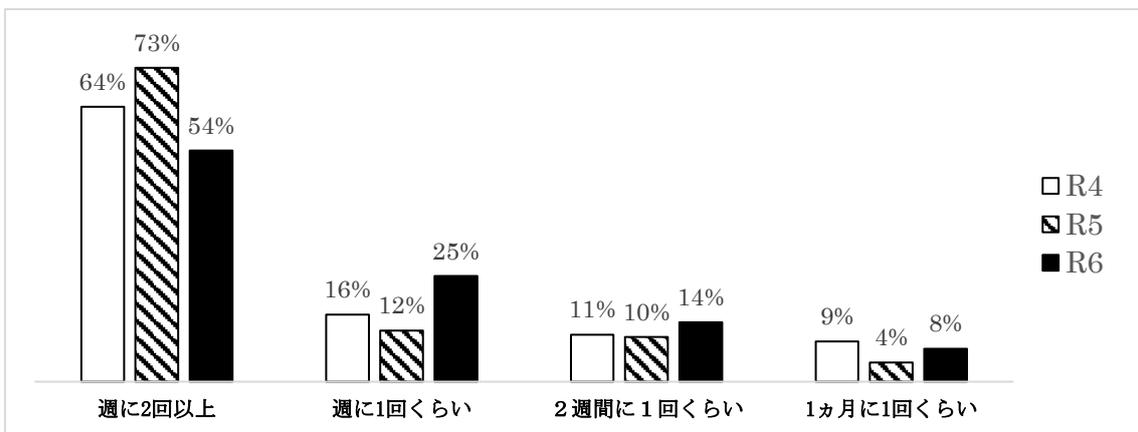


中等部

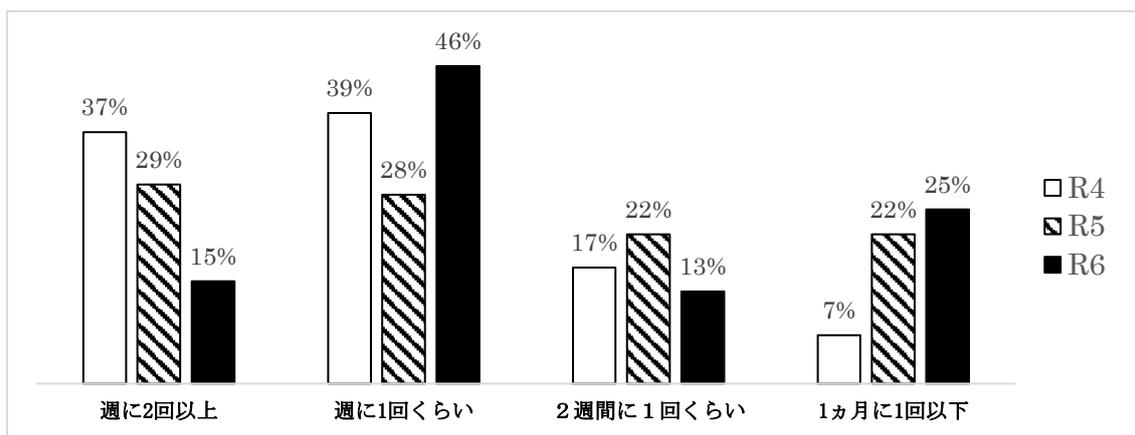


【図表3】学校の図書室にはどのくらい行きますか？

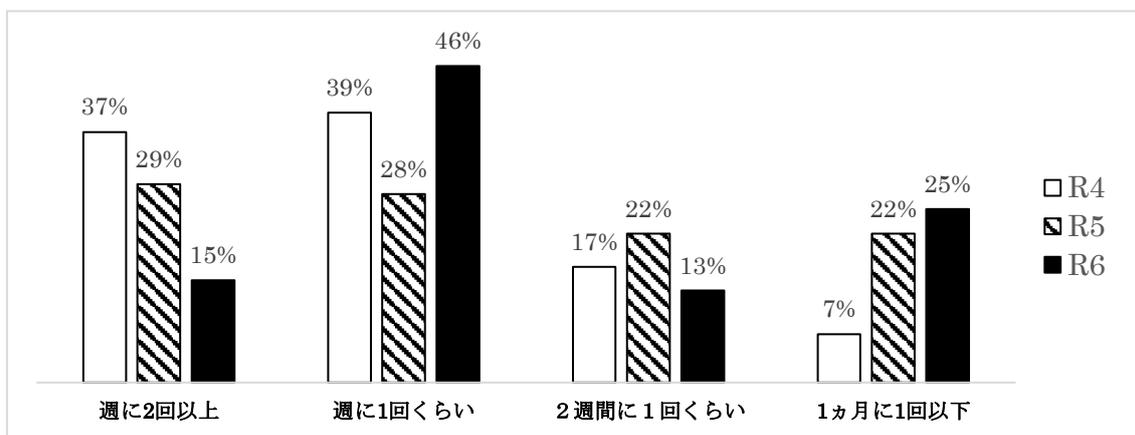
初等部下学年（1～3年生）



初等部上学年（4～6年生）

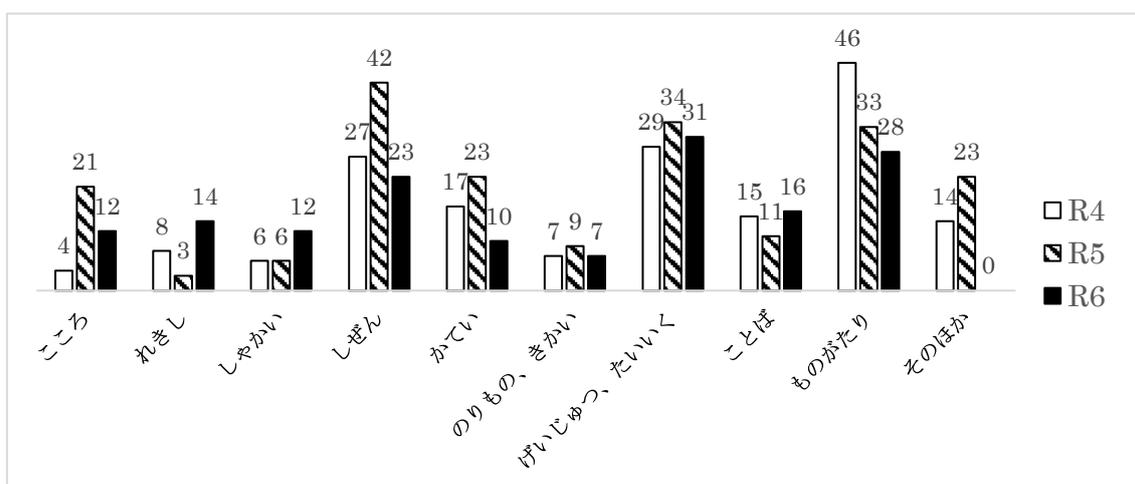


中等部

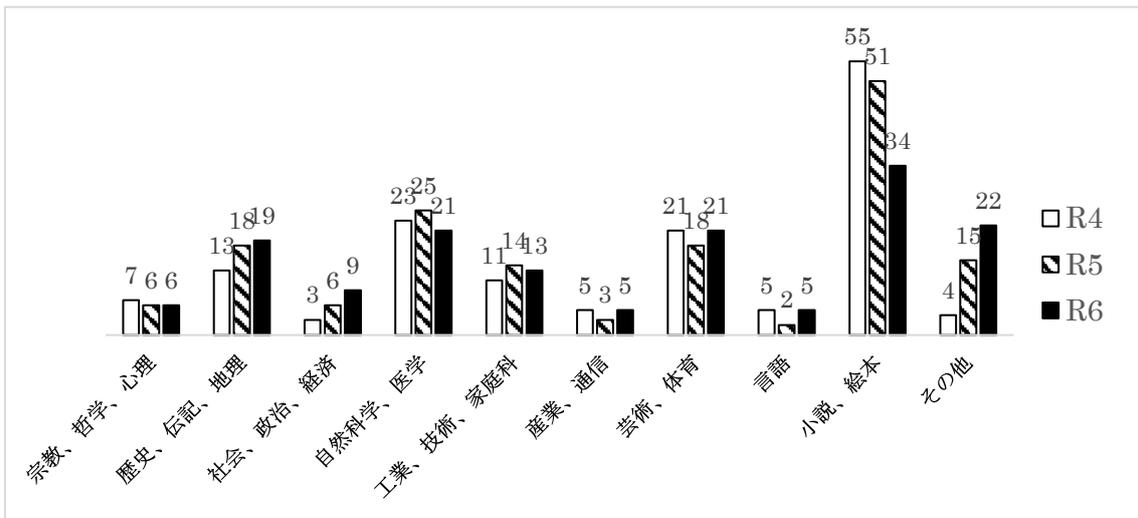


【図表5】どんな種類の本を読みますか？いくつでも○をつけて下さい。

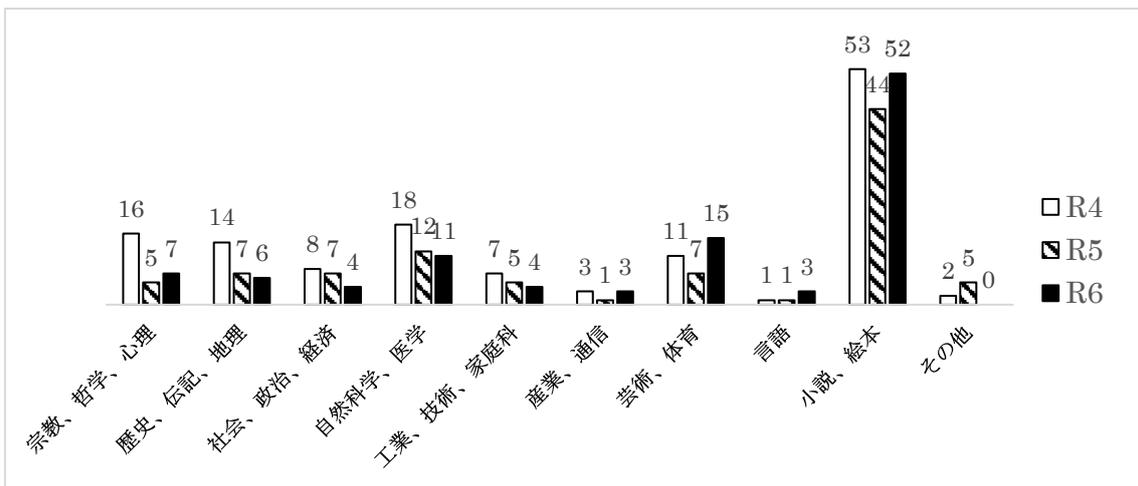
初等部下学年（1～3年生）



初等部上学年（4～6年生）



中等部



2. 第4次戸沢村読書推進計画策定委員名簿

委員長	共育課長	清水 利枝子
委員	初等部（図書主任）	八鍬 美紀
〃	中等部（図書主任）	斎藤 玲
〃	戸沢保育所 主任保育士	斉藤 美穂
〃	健康福祉課 ブックスタート事業担当	藤山 海咲
〃	読み聞かせサークル代表	山崎 里美
〃	初等部（地域コーディネーター）	早坂 幸子
〃	中等部（地域コーディネーター）	古澤 千代子
事務局	共育課 学社融合主幹 兼 指導主事	高橋 恵
〃	共育課 主事（学校教育係）	佐藤 亜澄
〃	共育課 中央公民館図書室担当	堀米 綾
〃	共育課 社会教育体育係長	加藤 江利子

